

# 公益財団法人とちぎ未来づくり財団 令和6年度事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの本財団の事業について、次の通り報告する。

## 概要

当財団は、次代を担う子ども及び青少年の健全育成・福祉の増進に資すること並びに県民の生活に潤いと活力をもたらす文化の振興に寄与することを目的とし、公益性の高い各種事業の展開により地域社会に貢献している。

令和6年度においても、青少年健全育成事業、文化の振興に関する事業、埋蔵文化財の保護及び調査に関する事業などを、相互の連携のもと実施した。また、財団の基本理念である『未来づくりは人づくり』を踏まえ、ロゴマークの策定及び財団ホームページのリニューアルを行った。

当財団が指定管理を受託する4施設のうち「栃木県総合文化センター」「栃木県立とちぎ海浜自然の家」「栃木県立なす高原自然の家」においては、新たな指定期間の初年度として指定管理申請における事業計画を着実に実施すべく適切な管理運営に務めた。

また、子ども総合科学館においては、大規模改修工事のため昨年1月から約1年9か月にわたり屋内施設を休館しているため、屋外施設事業及びアウトリーチ事業等を積極的に展開するとともに、令和7年10月のリニューアルオープンに向けて県と連携を図りながら適切に準備を進めた。

各施設の利用状況は、コロナ禍前の例年ベース比では9割程度となっており完全な回復には至っていない。加えて、資源高等に伴う物価高騰及び人件費の上昇は、各施設の管理運営費に大きな影響を与えたが、利用者獲得のための積極的な営業活動や効率的な運営及び徹底的な経費の節減を行い収益の確保に努めた。

## I 事業の状況

### A. 次代を担う子ども及び青少年の健全育成並びに福祉の増進に資する事業

#### 1 青少年健全育成事業〔栃木県青少年育成県民会議事業〕（公益事業1）※参考資料1参照

##### (1) 市町村民会議との連携強化、住民啓発促進に関する事業

青少年育成関係者が一堂に会する全体連携会議を実施することにより、市町村民会議や青少年関係団体等との連携強化を図った。また、県・市町・団体等の実施する青少年育成事業に共催や後援を行ったほか、事業に参加することにより連携を深めた。

##### ア 青少年育成市町村民会議支援

- ・市町村民会議の組織強化、活動支援

##### イ 青少年育成指導員活動支援

- ・育成指導員の活動支援

##### ウ 啓発資料作成

- ・「青少年とちぎ」の発行
- ・県民運動啓発物品等の作成

##### エ 青少年育成団体連携

- ・各青少年育成関係団体との連絡調整
- ・県、市町、団体等の実施する青少年育成関連事業への共催、後援及び参加

(2) 青少年の自立と社会参加活動の推進に関する事業

主体的に判断し行動できる資質や能力を身につけるための事業を行い、青少年の健全育成を図った。

ア 少年の主張発表大会（中学生 12,566名参加）

- ・地区大会への助成／8地区
- ・県大会の開催／9月21日 総合文化センターサブホール 地区代表16名
- ・全国大会への推薦／本県代表 岡本 智尋さん 努力賞受賞

イ 青少年育成県民会議表彰

- ・青少年育成に功績のあった団体、個人等の表彰／12団体、27名
- ・社会貢献青少年表彰／1名

ウ 親子学び合い（ネット時代の歩き方講習会）事業

- ・ネット時代をよりよく歩んでいくために必要な力や環境づくりについて考える講習会を小中学校等で開催／101校 児童生徒11,126名、保護者3,549名受講

エ 親子学び合い講師フォローアップ研修

- ・講師養成講座を修了し、「とちぎネット利用アドバイザー」として認定した者を対象としてステップアップのための研修を開催／2回

オ 「とちぎネット利用アドバイザー」講師養成講座

- ・親子学び合い事業の講師として将来活躍できる人材を育成／9名を認定

カ 青少年育成セミナー

- ・青少年育成関係者を対象に青少年問題の現状や課題について考えるセミナーを開催／2回

キ ミライチャレンジプロジェクト事業

- ・次代を担う若者リーダーの育成を目的として、若者団体に活動費を助成し、指導・助言を行い認定した。

県政課題部門／4団体 特定テーマ部門／2団体

(3) 「とちぎ心のスクラム県民運動」推進事業

青少年育成運動の一層の推進を図るため、県や市町、教育委員会、県警察本部など関係団体との連携を強化し、県民運動推進体制の整備を図った。

ア 「家庭の日」推進

- ・「家庭の日」絵日記コンテストの実施／1,205点応募
- ・入賞作品の展示（県庁、県立博物館、ミナテラスとちぎ、なかがわ水遊園等）
- ・啓発カレンダーの作成／3,450部

2 栃木県子ども総合科学館管理運営事業（公益事業1）※参考資料2参照

大規模改修のため屋内施設は休館となったが、改修期間中においても科学技術の普及や児童の健全育成を推進するため、屋外施設や他の県有施設等を活用して各種事業を行った。

また、科学館の役割や機能等の理解促進を図り、リニューアル後の利用者拡大につながるよう、これまで部門別に行ってきた出前授業等をアウトリーチ活動として拡充し、県内各地で実施した。

	令和6年度	令和5年度	対比
総利用者数	162,487人	440,104人	36.9%
乗り物利用者数	24,409人	40,635人	60.1%
収入金額（税込）	3,848,900円	6,295,630円（58,441,670円）	6.6%

※令和6年度は、大規模改修工事のため屋内施設を休館し、屋外施設（乗り物広場、催し広場等）のみで運営したため、上記の収入金額は屋外施設利用料の金額を記載した。

なお、（ ）内は令和5年度の総収入金額である。

(1) 科学館の屋外施設を活用した事業

ア そとでもサイエンス

サイエンスショー（30回）をはじめ、簡易展示体験（28回）、工作（49回）など科学体験を楽しめる催しを行った（土日祝日を中心に不定期で実施）。

イ 天体観察会

屋外広場等を活用して、天体観察会等を行った。

- ・太陽観察を行う「太陽をみる会」を22回実施
- ・月や惑星、二重星などを観察する「星をみる会」を10回開催
- ・ウェブサイトでの天体映像配信を266回実施

ウ 体験・育成事業

「工作のテイクアウト」を59回、「まめっこタイム」を4回、「忍者道場」を2回、「JUMP-JAM」を10回、「ウォーターバトル」を1回実施した。

エ 乗り物広場の運営及び屋外遊具の管理

変わり種自転車（32種80台）の貸し出し、ミニ機関車の運行とそれらに係る点検・整備等の実施、並びに屋外遊具の安全点検を行った。

(2) 科学館以外の他の施設を活用した事業

ア 企画展（春）の開催（「ビー玉でサイエンス in 栃木県立博物館」）

令和5年度夏の企画展で製作した展示品を中心としたミニ企画展を県立博物館において実施した。

- ・栃木県立博物館 5月1日～6日 6日間で4,106名参加

イ 企画展（夏）の開催（「科学館がやってきた！とちぎサイエンスツアー」）

科学館の代表的な体験展示品をパッケージ化し、県北、県央、県南の会場を巡回して企画展を実施した。

- ・なかがわ水遊園 7月23日～29日 7日間で3,774名
- ・とちぎ花センター 8月6日～12日 7日間で1,143名
- ・栃木県立博物館 8月20日～25日 6日間で2,214名 計7,131名参加

ウ ロボット・チャレンジ2024 11月9日 とちぎ青少年センター 140名参加

ものづくりを楽しむ機会として、青少年対象の自作ロボットによる競技会を実施した。

エ 体験・育成事業

子ども同士の交流を促進する「おしごとラボカンパニー」を5回、子育て支援のための「まめっこタイム」を9回、宇都宮市立南図書館で実施した。

(3) アウトリーチ事業

リニューアル後の利用者拡大につなげるため、科学普及啓発や児童健全育成のプログラムを用いたアウトリーチ事業を拡充して、年間で230回実施した（年度当初の目標：200回実施）。

- ・科学プログラム（サイエンスショー・科学工作教室 12種類）
- ・天文プログラム（天体観察教室・星と宇宙の話・天文工作教室 8種類）
- ・あそびプログラム（あそびの出前・工作のテイクアウト 8種類）
- ・出張！まるっと科学館（展示、天文、あそびの複合プログラム）

ア 公募による実施：185回

- ・メニュー別：253件（科学147件、天文42件、あそび55件、まるっと科学館9件）
- ・団体別：185団体（学校53、幼保18、社会福祉施設29、教育17、子育て68）
- ・市町別：23市町（宇都宮市69回、那須塩原市17回、上三川町11回等）

- イ 関連施設との連携事業による実施：45回
- ・ 県立博物館 3回（サイエンスショー、天文教室、工作教室）
  - ・ 海浜自然の家 6回（工作教室、天文教室）
  - ・ ミナテラス 24回（サイエンスショー、天文教室、工作教室、遊びのプログラム等）
  - ・ おもちゃ博物館 5回（サイエンスショー、遊びのプログラム等）
  - ・ なかがわ水遊園 3回（サイエンスショー、展示体験等）
  - ・ わんぱく公園 4回（サイエンスショー、観察会、工作教室、遊びのプログラム）

(4) その他の関連事業

ア 広報活動の充実

ホームページやSNS、広報紙等を活用した各種イベント等の告知や屋外施設の運用状況、アウトリーチ事業の進捗状況等の情報発信を行った。

イ 大規模改修工事の円滑な実施のための栃木県や工事業者との緊密な連携調整

**3 栃木県立とちぎ海浜自然の家管理運営事業（公益事業1）※参考資料3参照**

栃木の子どもたちに海の自然や文化に触れさせる「海の分教場」、幅広い利用者に多様な学習の場を提供する「生涯学習施設」としての役割を果たし、「とちぎの海のふるさと」として県民に愛される施設を目指した管理運営を行った。

	令和6年度	令和5年度	対比
延利用者数	49,495人	35,576人	139.1%
収入金額（税込）	47,895,470円	29,102,011円	164.5%

※大規模改修工事のため、令和5年度は4月から6月まで休所、7月から9月まで一部利用制限

(1) 臨海自然教室事業

実施時期：5月～1月

対象：栃木県内の小学校、県立盲・聾・特別支援学校（小学部）の児童

延べ利用者数：27,452名（昨年度利用者数：28,193名）

内容：栃木県の小学5年生を対象に、海辺での集団宿泊や自然活動など、様々な体験的な学習を教育活動の一環として実施した。また、活動プログラムの提供を行うとともに実施に当たっての指導助言などを行うことにより、安全で有意義な体験活動が行えるよう支援した。

(2) 各種団体受入事業

実施時期：通年

対象：学校、企業、各種団体等

延べ利用者数：22,043名（昨年度利用者数：7,383名）

内容：県内外の学校教育・社会教育団体や企業等を受け入れ、研修、交流活動、家族のふれあい活動等を支援した。また、施設・備品等の貸出しや活動プログラムの提供や活動に対する助言を行うことにより、安全に有意義な生涯学習活動が行えるよう支援した。

(3) 主催事業

周辺の自然環境を活かし、教育施設としての目的に合致した企画事業を実施した。

全10事業、総参加者数：1,403名（昨年度参加者数：1,050名）

- ア 夏を満喫！地引網体験
- イ 海浜初日の出
- ウ 海びいあんこうまつり ほか

#### 4 栃木県立なす高原自然の家管理運営事業（公益事業1）※参考資料4参照

山の自然や文化に触れさせる「山の分教場」、那須高原に位置する「生涯学習施設」として、周辺の豊かな自然を活用した青少年の団体宿泊学習や県民の多様な団体活動を支援することにより、青少年の健全育成と生涯学習の振興を図った。

また、地域との連携、SDGs、体験活動の啓発・推進などを盛り込んだ「グランドデザイン2024」を作成し、情報発信に努めるとともに、新規主催事業の実施や活動プログラムの開発を通して新しい利用者層の開拓を図った。

	令和6年度	令和5年度	対比
延利用者数	27,244人	30,138人	90.4%
収入金額（税込）	25,419,220円	26,482,700円	96.0%

##### (1) 各種団体受入事業

栃木県内外の学校、社会教育団体等に研修の場を提供した。また、施設、備品等の貸出し、活動プログラムの提供や活動に対する助言を行うことにより安全で有意義な生涯学習活動が行えるよう支援した。

実施時期：通年

対象：研修を目的とした団体・グループ

内容：登山・ハイキング、野外・自然体験活動、スポーツ・レクリエーション活動、創作活動、調理活動、その他の活動

延べ利用者数：27,244名（昨年度利用者数：30,138名）

##### (2) 主催事業

周辺の自然環境を活かし、社会教育施設としての目的に合致した企画事業を実施した。

全11事業、総参加者数：426名（昨年度参加者数：406名）

ア ふれあい登山教室

イ ウィンディ親子読書

ウ ウィンディウィンターキャンプ ほか

## B. 県民の生活に潤いと活力をもたらす文化の振興に寄与する事業

#### 5 文化の振興に関する事業（公益事業2）※参考資料5参照

県民文化の振興と文化活動の支援のため、良質な舞台芸術の鑑賞型事業と県民の文化活動への参加・創造・交流型事業を実施した（44事業89公演/うち1事業1公演中止）。

##### (1) 自主財源による文化事業

財団主催の各種文化事業及び民間事業団体等との各種共催事業等を実施した。

ア 主催事業（12事業18公演）

- ・平日の贈り物♪ランチタイムコンサートシリーズ 全6回

- ・佐渡裕指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団 with 角野隼斗（ピアノ）

- ・反田恭平&ジャパン・ナショナル・オーケストラ
- ・松竹特別歌舞伎「中村獅童のHow To かぶき」 ほか
- イ 共催事業（20 事業 40 公演）
  - ・劇団四季ミュージカル「ジーザス・クライスト＝スーパースター」
  - ・上妻宏光 宮田大 Duo Concert Tour - 月食 -
  - ・ジョージア国立バレエ「くるみ割り人形」 ほか

(2) 栃木県補助金等による文化事業

- ア 鑑賞型事業（1 事業 1 公演）
  - ・狂言シリーズ第 28 弾！「狂言 万作の会」
- イ とちぎ舞台芸術アカデミー（参加創造交流型文化事業）（9 事業 29 公演）
  - ・第 4 回栃木県新人音楽家演奏会
  - ・第 28 回『コンセール・マロニエ 2 1』（弦楽器部門）
  - ・学校訪問演奏会『音楽って素晴らしい！学校でこんにちは！』（上都賀・河内・芳賀地区）
  - ・とちぎアーティストバンク推進事業「とちぎのアーティスト元気発信ステージ」 ほか

(3) その他

- ・とちぎアーティストバンク運営事業

**6 埋蔵文化財の保護、調査研究及び普及啓発に関する事業（公益事業 3）※参考資料 6 参照**

栃木県及び国、県内市町の委託を受けて、開発地内等の埋蔵文化財の発掘調査事業を実施するとともに、栃木県からの委託により、埋蔵文化財センターの施設の管理並びに埋蔵文化財の保存・活用及び埋蔵文化財についての知識の普及に関する事業を行った。

(1) 埋蔵文化財発掘調査事業（発掘調査及び整理作業件数 13件）

- ア 栃木県からの受託事業
  - ・いにしえのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト／侍塚古墳（大田原市）
  - ・道路整備事業／城ノ内遺跡（上三川町）ほか
  - ・農地整備事業／小泉分校裏遺跡・山根遺跡ほか（益子町）
  - ・遺跡確認調査／イに係る事前確認調査（野木町）
- イ 国からの受託事業（国土交通省）
  - ・思川堤防整備事業（野木町）
- ウ 市町からの受託事業
  - ・栗宮新都心区画整理事業（小山市）
  - ・佐野市遺跡詳細分布調査（佐野市）ほか

(2) 栃木県埋蔵文化財センターの管理及び埋蔵文化財の保存活用・普及啓発事業

- ア 埋蔵文化財に関する情報収集及び提供
  - ・県内外の埋蔵文化財に関する報告書等を収集、整理、保管し、図書室で公開
  - ・遺物、図面、写真等の貸出
  - ・県内市町の発掘情報を収集し「埋蔵文化財センターだより」に収録
  - ・「埋蔵文化財センターだより」「とちぎ発掘調査成果情報誌」等の印刷物による情報発信
  - ・ホームページやSNS等による情報発信

イ 埋蔵文化財に関する普及啓発

- ・展示／常設展及び年3回の企画展 ほか
- ・講座・講演会／特別講演会、企画展講座 ほか
- ・施設公開／バックヤードツアー、埋蔵文化財センター特別公開
- ・説明会・見学会／現地説明会、史跡見学会、学校・団体のセンター見学
- ・出前授業／学校・公民館等への出前授業・講座講師

ウ 研修

- ・埋蔵文化財担当者研修会／市町の埋蔵文化財担当者等を対象とした研修会を開催
- ・ボランティア研修／普及事業に協力するボランティアのスキルアップ研修を実施

エ 埋蔵文化財に関する出土品の資料管理

- ・出土品や記録した図面、写真、デジタルデータ等の保管管理
- ・退色する可能性のあるカラースライドフィルム等のデジタルデータ化

7 栃木県総合文化センター管理運営事業（収益事業） ※参考資料7参照

県内文化振興の拠点施設である栃木県総合文化センターの利用受付・打ち合わせ、利用者及び来館者サービス事業、施設維持管理業務、危機管理対策及び事業評価等を行った。

(1) 利用状況

項目	令和6年度	令和5年度	対比
利用率			
メインホール	61.9%	63.0%	-1.1%
サブホール	78.3%	73.0%	+5.3%
ギャラリー	61.6%	59.9%	+1.7%
会議室	56.8%	56.1%	+0.7%
練習室	62.5%	65.1%	-2.6%
利用料金収入(税込)	130,943,440円	128,188,760円	102.1%
らくらくサービス収入(税込)	9,988,892円	10,143,590円	98.5%

コロナ禍を経て文化団体の減少や活動の小規模化等が見られた。また、令和4年11月に開館の「宇都宮駅東口交流拠点施設 ライトキューブ宇都宮」の影響を大きく受けており、利用率及び利用料金収入ともにコロナ禍以前の水準の9割程度の状況である。

一方、県民の文化活動状況は緩やかに回復してきており、利用料金収入は前年度をわずかに上回った。

(2) 施設利用受付・打ち合わせ業務

ホール、ギャラリー、会議室、練習室等の利用受付及び打ち合わせを行った。

(3) 利用者及び来館者サービス業務

「イベントスケジュール」の発行、ホームページやメールマガジン・SNS等による催事情報の提供を行うとともに、文化団体や企業向けに施設利用促進を図る広告、広報活動を行った。

施設利用のアドバイスのほか、利用者のニーズに合わせてケータリングや会場設営などのサービスを提供する「らくらくサービス」事業を実施した。

(4) 施設の維持管理業務

利用に支障が生じないよう各種設備の保守点検を定期的に行うとともに、快適な館内環境を維持するため関連設備・備品等の適切な管理を行った。また、必要に応じ工事及び修繕を行った。

(5) 危機管理対策

来館者の安全を守るため、防災設備等の保守点検及び消防訓練を実施するとともに、危機管理マニュアルの点検を行った。

また、不審者侵入時に的確に対応するため、特殊防犯器具を新規購入し、取扱訓練等を実施した。

(6) 事業評価

利用者に快適に利用いただくため、利用者及び来場者アンケートの実施、利用者企画アンケート（グループインタビュー代替）の実施等に基づく事業評価を実施し、更なるサービス向上に努めた。

(7) 大規模改修後の対応

施設の適切な維持管理を行うことを目的として、大規模改修工事に続く中長期修繕計画を策定し、工事実施の必要性について積極的に県に提案を行った。

## C. 広報活動に関する事業

- ・財団のメインホームページをリニューアルして各施設・事業の情報をより分かりやすく発信できるようにしたほか、財団のPR動画を作成して公開した。
- ・新聞や情報誌等広報媒体を活用し、施設や財団事業案内の広報を行った。
- ・財団発行の広報誌による活動として、「青少年とちぎ」（年1回発行）や「イベントスケジュール」（年6回／総合文化センター）、「埋蔵文化財センターだより」（年2回／埋蔵文化財センター）などを発行し、関係機関及び県民に配布した。
- ・インターネットによる活動として、各事業所で独自にホームページ及びSNSを活用して情報発信をしたほか、総合文化センターの事業等の最新情報をメールマガジンにて、毎月1回1,000名の登録者（3月31日現在）に発信した。

## D. その他目的を達成するために必要な事業

- ・総合文化センターにおいては、県内22の公立文化施設で構成する栃木県公立文化施設協議会の運営事務局として、全国他県の動向など、各種情報の提供及び管理・技術関係の研修会を開催するなど、県内の公立文化施設の運営に関して指導・助言を行った。
- ・子ども総合科学館においては、栃木県児童館連絡協議会（県内42児童館で構成）の事務局として、児童館相互及び児童館職員間の連絡・交流活動、全国の動向などの情報提供、児童館運営や職員の資質向上に関する各種研修会の開催などを行った。
- ・とちぎ海浜自然の家、なす高原自然の家においては、栃木県青少年教育施設連絡協議会を組織し、自然の家みかもなど栃木県内に設置された6つの公立の青少年教育施設と連携し、職員の資質向上に関する研修会などを行った。また、関東甲信越地区青少年教育施設協議会（関東甲信越地区33施設で構成）に所属し、情報交換や研修会をとおして施設管理運営の向上に努めた。
- ・埋蔵文化財センターにおいては、全国47の埋蔵文化財法人で構成する「全国埋蔵文化財法人連絡協議会」に所属し、役員法人（地区代表幹事）並びに関東ブロック会長法人として活動した。

## II 処務の概要

### 1 役員等に関する事項

令和6年度中における役員等の異動は、次のとおりであった。

#### (1) 理事の異動状況

##### ① 就任

氏名	就任年月日	備考
鏡 淳子	令和6年4月1日	栃木県生活文化スポーツ部文化振興課長

##### ② 退任

氏名	退任年月日	備考
篠崎 岳彦	令和7年3月31日	栃木県生活文化スポーツ部次長兼県民協働推進課長
鏡 淳子	令和7年3月31日	栃木県生活文化スポーツ部文化振興課長
長野 辰男	令和7年3月31日	栃木県教育委員会事務局生涯学習課長

#### (2) 評議員の異動状況

##### ① 就任

氏名	就任年月日	備考
中村 和史	令和6年4月 1日	栃木県生活文化スポーツ部長
手島 隆志	令和6年6月24日	下野新聞社 論説委員長

##### ② 退任

氏名	退任年月日	備考
三浦 一久	令和6年6月24日	下野新聞社 編集局長
大森 豊	令和7年3月31日	栃木県教育委員会事務局教育次長（管理）

#### (3) 監事の異動状況

##### ① 就任

氏名	就任年月日	備考
清宮 孝之	令和6年6月24日	足利銀行 県庁内支店長

##### ② 退任

氏名	退任年月日	備考
金田 道太	令和6年6月24日	足利銀行 西那須野支店長

## 2 役職員数に関する事項

(令和7年3月31日現在)

### (1)役員等

役職名	常勤	非常勤	計
理事長	1		1
常務理事	1		1
理事		7	7
監事		2	2
評議員		9	9
計	2	18	20

### (2)職員

所属	職名	県派遣職員	財団職員	財団嘱託員 臨時職員	計	備考
本部事務局 (栃木県総合文化センターを含む)	事務局長				0	(常務理事兼務)
	館長				0	( " )
	副館長		1		1	
	課長	1	3		4	
	副主幹		2		2	
	主査	1	2		3	
	主任		4		4	
	主事		6		6	
	常勤嘱託員			6	6	
	非常勤職員			3	3	
	臨時職員			1	1	
	小計	2	18	10	30	
栃木県子ども総合科学館	館長		1		1	
	副館長	1			1	
	課長		2		2	
	副主幹		1		1	
	係長	1			1	
	主査		2		2	
	主任	1	3		4	
	主事	1	4		5	
	常勤嘱託員			6	6	
	非常勤職員			15	15	
	小計	4	13	21	38	

所 属	職 名	県派遣職員	財 団 職 員	財 団 嘱 託 員 臨 時 補 助 員	計	備 考
栃木県立とちぎ海浜自然の家	所 長		1		1	
	副所長兼課長		1		1	
	課 長	1			1	
	主 任	2			2	
	指導主事	7			7	
	指 導 員		9		9	
	常勤嘱託員			2	2	
	臨 時 職 員			3	3	
	小 計	10	11	5	26	
栃木県立なす高原自然の家	所 長		1		1	
	副 所 長	1			1	
	副 主 幹	1			1	
	社教主事	2			2	
	指 導 員		2		2	
	常勤嘱託員			4	4	
	小 計	4	3	4	11	
栃木県埋蔵文化財センター	所 長		1		1	
	副 所 長		1		1	
	副所長兼課長		1		1	
	課 長		2		2	
	副 主 幹		5		5	
	主 査		4		4	
	主 任		2		2	
	技 師		2		2	
	常勤嘱託員			8	8	
	臨 時 職 員			7	7	
	小 計	0	18	15	33	
合 計		20	63	55	138	

### 3 理事会及び評議員会の開催状況

#### (1) 理事会

開催年月日等	議 事 事 項	会議の結果
第50回理事会 令和6年6月10日	第1号議案 令和5年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団事業報告について 第2号議案 令和5年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団収支決算について 第3号議案 評議員及び役員の候補者について 第4号議案 第34回評議員会の招集及び提出議題について  報告第1号 職務の執行状況について	可決（賛成9）  可決（賛成9）  可決（賛成9） 可決（賛成9）
第51回理事会 令和6年11月12日	報告第1号 職務の執行状況について  第1号議案 令和6年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団収支補正予算案について 第2号議案 第35回評議員会の招集及び提出議題について	 可決（賛成9）  可決（賛成9）
第52回理事会 令和7年3月10日	第1号議案 令和7年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団事業計画案について 第2号議案 令和7年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団収支予算案について 第3号議案 評議員及び役員の候補者について 第4号議案 公益財団法人とちぎ未来づくり財団規程の制定及び改廃について 第5号議案 第36回評議員会の招集及び提出議題について	可決（賛成9）  可決（賛成9）  可決（賛成9） 可決（賛成9） 可決（賛成9）

## (2) 評議員会

開催年月日等	議 事 事 項	会議の結果
第34回評議員会 令和6年6月24日	報告第1号 令和5年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団事業報告について 第1号議案 令和5年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団収支決算について 第2号議案 評議員及び役員の選任について	可決（賛成6） 可決（賛成6）
第35回評議員会 令和6年12月6日	報告第1号 令和6年度上半期公益財団法人とちぎ未来づくり財団事業報告について 第1号議案 令和6年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団収支補正予算案について 第2号議案 役員の報酬等について	可決（賛成9） 可決（賛成9）
第36回評議員会 令和7年3月24日	第1号議案 令和7年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団事業計画案について 第2号議案 令和7年度公益財団法人とちぎ未来づくり財団収支予算案について 第3号議案 評議員及び役員の選任について 第4号議案 役員の報酬等について	可決（賛成6） 可決（賛成6） 可決（賛成6） 可決（賛成6）

## 4 寄付金に関する事項

寄附の目的	寄附者	寄附申込額	領収金額	備考
青少年健全育成活動推進	菊池宏行 氏	1,500,000	1,500,000	
青少年健全育成活動推進	栃木県更生保護女性連盟	150,000	150,000	
青少年健全育成活動推進	岩間靖子 氏	105,000	105,000	
計		1,755,000	1,755,000	

# 事業報告付属明細書

令和6年度事業報告においては、「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものはない。